

中長期目標 (学校ビジョン)	夢や希望に向かい 自分らしく輝いて たくましく生きる力を育む。			今年度の 重点目標	1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】 2 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】 3 「チームとりよう」を推進する【連携・協働・業務改善】	《キーワード》 「可能性」	
年 度 当 初						()月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策
1 学習指導・ 授業改善に努める【授業実践の充実】	小学部	○自分らしさを発揮し、願いを抱き意欲的に学ぶ授業づくり	・勉強会を通して、授業づくりや教材等に関する情報交換ができ、各クラスで児童の実態に応じた教材や題材を工夫し、興味関心が高まっている様子が見られているが、児童の inner の願いを理解し、引き出す授業づくりがさらに必要である。	・教材や指導方法に関する情報交換が日常的に行われ、児童の実態や興味関心に応じた授業が実践され、児童が安心して自分らしさを発揮する姿が多く見られ、児童の願いに寄り添っている。	・勉強会や掲示板を通して、授業づくりに関する情報共有を継続する。 ・勉強会等の資料をいつでも見られるように保存する。		
	中学部	○一人一人の課題や教育的ニーズに応じた授業づくり	・教育的ニーズや支援について共通理解を深めることで、生徒が見通しをもち、主体的に取り組める授業づくりに活かすことができるようになってきた。(共通) ・個々の教育的ニーズに応じた実践をしており、生徒も意欲的に授業に取り組んでいる。しかし、生活に根ざした場面で活用できなかったり、諸検査等の結果に現れない現状がある。(単一障がい学級)	・実態把握をもとに根拠ある支援が行われ、生徒は「わかる」「できた」と実感する自己肯定感が向上し、主体的に学習に取り組んでいる。 ・教育的ニーズや支援について共通理解が深まり、それらに応じた的確な目標設定のもとに授業づくりが行われている。	・実態把握をもとに教育的ニーズを明確にし、効果的なICT活用や教材・支援の工夫を行うことで、主体性を促すとともに学習の理解を深める。(共通) ・単元の始めと終わりに学習グループで目標や支援について確認の会を実施する。(重複障がい学級)		
	高等部	○キャリア教育の視点に立った授業づくり	・各担任、教科担当が生徒一人ひとりの自立と社会参加を目指して授業実践を行っている。キャリア教育の視点に立った個々の課題やつけない力についての共通理解をより深め、それを指導に生かしていく取り組みが必要である。	・キャリア教育の視点をより意識しながら、個々の課題やつけない力について教員の間でしっかりと共通理解が行われ、ねらいに沿った授業づくりが行われている。 ・未来に向かって小さなチャレンジを重ねることで、意欲をもって主体的に学ぼうとする生徒を育てる。	・キャリア教育の視点について学部全体で共通理解する機会をもち、そこを土台として生徒の課題やつけない力について共有したり、授業の取り組みや生徒の様子について共有するための会を月1回以上もつ。		
	教務部	○とりようのまなびの視点と結びついた諸計画の在り方についての検討	・とりようのまなびの視点と、作成している諸計画とのつながりについての意識や理解が浸透しきっていないことや、作成の労力とそれに対する有用感とが比例していないと感じている教員が多い。 ・新学習指導要領への移行に伴い諸様式の見直し、整備を行っていく必要がある。	・個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成にあたり、本校として必要な手順や視点についてまとめられている。	・とりようのまなびプロジェクトで、関係分掌と話し合いながら諸計画を作成する意義や有用なものにするために必要な内容などについて確認、整理する。 ・研究日や子どもを語る会、学部会などの時間も利用しながら意見交換や理解推進を行う。		
	研究研修部	○主体的な学びを育む授業づくり	・「とりようの『まなび』」の視点による教育的ニーズの把握と個別の支援が図られてきているが、新学習指導要領を踏まえ、3観点での目標設定と評価について検討していく必要がある。 ・「主体的な学び」の具体的な姿をもとにした授業改善により一層取り組むために、授業展開や指導方法の工夫を図る必要がある。	・新学習指導要領の3観点での目標設定と評価を検討し、一人またはグループで授業の実践に取り入れる模索が行われている。 ・教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせる授業づくりや、「合わせた指導」において年間指導計画の修正が行われている。	・とりようの『まなび』や本校の授業づくりについて共通理解を深めると共に、教科の特性や学習評価について学ぶ機会を設け、具体的な取り組みをグループ研究等で検討する。 ・教科別、学部別研究グループの活動を通して、教科の特性に応じた授業づくりや、合わせた指導の年間指導計画の検討を行う。		
	自立活動部	○児童生徒の実態に応じた、自立活動の適切な目標設定と指導内容の充実	・昨年度、自立活動目標設定シートを作成し、それを活用して目標設定を行うようにした。これに伴い、目標検討会のやり方も刷新した。活用にあたり、研修会を開いて共通理解を図ったが、活用初年度ということもあり、難しさを感じる職員もいる。 ・お役立ち勉強会(自主勉強会)や自立活動情報誌「MANABI」等で、自立活動の指導に関する情報を定期的に提供している。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催する研修会の精選を行う必要がある。	・自立活動目標設定シートを活用した目標設定について、7割以上の職員が昨年度より理解できた、もしくはスムーズだったと感じている。 ・主催した各種研修会の内容が、教職員にとって日々の授業実践に役立つものであったと感じている。(7割以上)	・自立活動目標設定シートの活用に関する研修を開催する。また、目標検討会時に自立活動部員が助言をできるようにグループ編成を工夫し、アンケートを実施する。 ・MANABIを年4回以上発行するとともに、お役立ち勉強会等、実践に役立つ研修会を年4回以上実施し、アンケートをとる。		
	情報教育部	○ICTを活用した授業実践の推進と充実	・情報モラルの児童生徒への指導に課題がある。 ・学習保障事業(オリヒメ)及びアプリを活用した双方向の情報発信(遠隔授業等)に取り組む必要がある。	・教員が情報モラルについて理解し、情報モラルの指導ができる。 ・オリヒメを含め様々なアプリを活用した双方向の情報発信(遠隔授業等)を行うことができる教員が7割以上となる。	・教職員が児童生徒の実態に応じたICT活用が行えるように、関係機関等と連携した研修会を行う。 ・ipad等を使用した双方向の情報発信、テレビ会議システムの説明会の実施。実践例の紹介を行う。		
2 児童生徒の健康と安全を守る【QOLの向上】	小学部	○健康を守るための学習内容や学習形態の工夫と教室環境づくり	・各クラスで衛生管理に留意し、室温の管理など児童一人一人に応じた対応がなされているが、感染症拡大予防対策のため、児童の健康を守り安心して学校生活が送られるように、学習内容や学習形態を従来とは変更している。	・児童一人一人の障がい特性や体調を踏まえた教室の衛生管理や空調調整がなされている。 ・感染症拡大予防対策に努めながら、学習内容や学習形態を工夫し、現状のなかでの学習保障ができている。	・衛生管理に関する物品の点検や教室環境を整えるうえでのポイントの標準化などに取り組む。 ・感染症拡大予防対策のための情報交換の場を設定し、児童・教職員の不安の軽減をする。		
	中学部	○生徒が安心感の中でより主体的に活動できる教室環境の整備	・生徒の心や身体の変化について共通理解の場を設けているが、細かな対応について共通理解が不十分な面がある。(単一障がい学級) ・学部会、子どもを語る会、グループ研究等で情報交換を行い、共通理解を図ってきたが、新しい教職員が加わり、細やかな確認が必要になっている。	・職員同士が生徒の共通理解を深めることで、学校や教室が安心して過ごせる居心地のよい場となり、生徒が主体的に活動している。	・生徒個々の体調や心身の変化等への具体的な配慮がイントについて記録に残し、学部会、子どもを語る会等で情報交換や共通理解を深める。 ・わかりやすい記録の取り方について、書式等情報交換を行う機会を持つ。教室環境についてはお互いに見合ったり、写真で紹介したりする。		
	高等部	○生徒が安心して学べる教育環境づくり	・生徒の特性や体調についての共通理解を行っている。 様々な場面を予想し、早めの対応や未然防止について共通理解した上で取り組みをしているが、十分ではない。(単一障がい学級) ・年度や季節の変わり目に体調が崩れがちになったり、成長とともに今までになかった体調の変化がみられたりする(重複障がい学級)	・生徒が心身ともに安心して学校生活を送れるように情報を共有し、対応をとることができる。(単一障がい学級) ・感染の予防に留意しながら、日頃の生徒の様子を丁寧に観察したり情報交換したりすることで、早めに対応することができている。(重複障がい学級)	・より適切な指導ができるように日々の情報交換を密にし、生徒の心身の様子を早めに把握できるようにする。(単一障がい学級) ・生徒の心身の状況を日々の健康観察等で把握し、担任間で情報交換をしたり養護教諭に相談したりして、心身の健康がより良好に維持できるようにする。(重複障がい学級)		
	保健安全部	○児童生徒が安全に快適に学校生活を送ることができる環境整備と体制づくり	・安全で健康的な学校生活を送ることができるように、基本的事項や児童生徒への対応についての研修を行っているが、感染症拡大予防対策のため、現状に応じた計画や見直しが必要である。 ・地震、火災時の避難経路や場所、児童生徒の引き渡し等、課題が残っている。防災委員会、総務部と連携を図っていく必要がある。	・個に応じた緊急救急体制が学級・学部・学校で共通理解され、危機管理意識を持ち、環境や体制が整備されている。 ・新連絡通路完成に伴い、災害時の緊急対応について検討し、体制が確立している。	・研修や各種訓練の反省、緊急・防災ウィークでの気づきから、安全面・健康面に留意した対応を行う。 ・昨年度の課題点から救急体制を作成し、防災委員会を開催して体制を決定する。		

		年 度 当 初			()月			
評価項目		評価の具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策
3「チームとり よう」を推進する【連携・協働・業務改善】	小学部	○保護者や関係機関と連携した指導支援の充実と同僚性の向上	・保護者や関係機関から得た児童の情報や助言が、クラス内では共有され、指導にいかされていたが、学部全体で共有することでより専門性を高めたり、同僚性を向上させたりすることに至っていない。	・保護者・関係機関と児童の情報を共有しながら、研修に取り組み、各自の専門性を高めながら、互いに支えあう教職員集団となっている。	・助言内容等について学部全体に周知したいことについては、回覧やPC上で共通理解が図れるようにする			
	中学部	○自己実現に向けた指導・支援を行うための連携の在り方	・自らの進路に対する意識は少しずつ高まってきているが、まだ自分の問題として考えることのできていない生徒もいる。(単一障がい学級) ・学校、保護者、関係機関等との連携強化に努めてきたが、進路に関する情報については十分な情報提供ができていない。	・将来の姿をイメージし、そのためにどんな力が必要かを考えるよう、指導や支援が適切に行われている。 ・生徒一人一人の病気や障がいの状態や特性に応じた適切な支援を行うために、保護者・関係機関との連携を深めている。	・高等部の教育課程や学びの実態を生徒に知らせたり、本校以外の高校や高校卒業後の福祉就労等の実態を伝えたりする学習の場を設定する。(単一障がい学級) ・職場体験、校内作業実習、福祉施設等利用週間に際し、具体的な資料を使って進路情報を提供し、卒業後を見据えた支援を行う。			
	高等部	○確かな進路実現に向けての支援体制づくり	・高等部卒業後の進路として生活介護から一般就労、進学等多様であり、それぞれの進路に応じた指導・支援が必要である。	・職場見学や体験等の経験を生かして、それぞれの進路に応じた指導・支援が適切に行われている。	・より適切な進路指導ができるように、学部会等を利用して進路に関する情報共有の場を年4回以上設ける。 ・本人や保護者の進路に関する希望を元に、具体的な計画やスケジュールを立てて、進路指導主事とも連携しながら、進路実現に向けての指導・支援を進めていく。			
	支援部	○地域におけるセンター的機能の充実	・外部からの障がいの状態に応じた様々な支援や就学、進学に関する相談に対して、校内の職員の専門性を活用し、できるだけチームで対応するようにしている。 ・校外からの教育相談や特別支援教育研修会、交流及び共同学習等、本校のセンター的機能の取り組みについて校内の職員へ周知・理解を進めている。	・エキスパート教員や学部主事等と連携しながら、適切な支援方法の提供や就学相談を行っている。(地域支援) ・本校のセンター的機能について、教職員が周知・理解している。	・エキスパート教員等を中心として地域へのセンターの機能が果たせるよう、特別支援教育研修会の持ち方、内容を工夫する。 ・掲示板や職員連絡等で、本校が行っているセンター的機能の取り組みについて報告する機会を設ける。			
	文化部	○わくわくフェスタの意義の共通理解と効果的な運営	・学校の一日にわくわくフェスタを開催したことで、情報が共有しやすくなった。 ・わくわくフェスタの捉えが職員に浸透していないとやや感じられる。	・全職員がわくわくフェスタ全体の流れや担当する仕事内容を把握しながら、連携して運営することができた7割以上の人が感じている。	・誰にでもわかるシステムの明確化(見やすいフォルダ) ・わくわくフェスタの意義を早めに提案し、全職員で共通理解する。			
	キャリア教育部	○本校の進路・キャリア教育の取り組みや収集した情報の発信	・本校の進路の流れやキャリア教育・人権教育の基本的な考え方について、教職員に定着していない部分がある。 ・学校説明会、参観日等で卒業後の進路やキャリア教育、人権教育について説明してきたが、十分に伝わっていない面がある。	・進路の流れやキャリア教育・人権教育の基本的な考え方について教職員で共通理解し、実態に応じた目標を意識して指導をしている。	・校内研修(全体、学部等)を2回以上計画し、進路、キャリア、人権教育について教職員で共通理解する。 ・教職員、保護者への情報提供の方法を整理し、必要な情報が伝わるよう工夫する。			
	総務部	○分掌業務の見直し	・再編や削減した業務、未来企画委員会で検討した内容の進捗状況を確認し、年間の教育活動を通して不具合がないか検討し、調整を図ることが必要である。	・年度末には、再編・削減した業務、未来企画委員会部で検討した内容について、不具合の有無が確認され、不具合のある70%以上の項目について分掌間で調整されている。	・再編・削減した業務、未来企画部で検討した内容を総務部内で確認し、職員に周知する。(5・6月) ・7月・11月にアンケートを行い、再編・削減した業務における不具合を確認し、調整する。			

A:十分達成(90%以上または目標値以上) B:おおむね達成(70～90%未満または目標値の70～90%未満) C:できつつある(40～70%未満または目標値の40～70%未満) D変化の兆し(20%～40%未満または目標値の20%～40%未満) E:まだ不十分(20%未満または目標値の20%未満)